

医療制度改革の中で

社会保障制度改革国民会議から病床機能情報報告制度の早期導入、病床機能の分化と連携の推進、在宅医療の推進、地域包括ケアシステムの推進、医療職種の業務範囲の見直し、総合診療医の養成と国民への周知など医療提供体制の見直しが報告されました。これに伴って救急病床や療養病床の削減、薬剤師の役割や専門医制度の変革など医療制度の見直しが始まっています。高知県においても慢性期の病床の大幅な削減が報道され大きな話題となっています。以前から言われていることですが、医療を取り巻く環境は大きく変わってきており医療に関係する私達は、過去に類をみない大きな決断を余儀なくされる時期にきていると思います。少子高齢化が進む中、我が国の財政を伴う環境を考えると医療にとっての財源論は非常に厳しいということになり、次回の診療報酬も減収の方向になることが予想されています。このような状況下でそれぞれの医療機関はどのような選択をすべきかの検討が始まっているようですが高知病院もこのような大きな荒波の中で正しい方向に向かって航海していかなければなりません。新年度に入り非公務員型として国立病院機構は再スタートを切りましたが、それに伴い各病院には様々な負担が課せられ今後病院の運営は今まで以上に大変になってきております。医療自体は本来収益を求めるようなものではありませんが、赤字経営では病院が運営できなくなってきました。病院の目標である良質の医療を提供するには医療機器の整備が必要ですし、そのためには資本が必要となります。今年に入り病院機能評価を受審しましたが、医療安全や院内感染対策などにおいても費用が発生することが多くなっています。このように良質で安全な医療を提供するためには経営基盤の確立は不可欠です。これからの国の取り組みをみると病床報告制度や医療ビジョンなど病院にとっては厳しい締め付けとなりますが逆に地域における医療提供体制について考えるきっかけになるかと思えます。今、病院にとって最も重要なことはそれぞれの職種が全力を尽し、その力が同じベクトルに向き全職員が一丸となることと思えます。国立時代には考えられなかったことですが機構病院も運営できなくなればなくなる可能性もあり得ます。このような環境においても高知病院は地域に貢献する医療機関として存在せねばなりません。そのためには職員すべてが厳しい状況を自覚し意識を大きくかえることが必要で、職員一人一人が良い医療を目指して毎日毎日の勤務を基本に沿って実践していくことが重要です。この先どうなるか不透明なところも多いですが、医療の基本である良質で安全な医療を提供し患者さんに信頼される病院になることが最も大切です。このためにはどうすればいいかということをお互いに考え実行していただきたいと思っています。この厳しい時代を皆さんの力を結集して乗り越えていきましょう。